

区分	専門分野	単位	1単位
科目名	老年臨床看護Ⅲ	時間数	15時間
講師名	専任教員	履修学年	3年次
概要	<p>1. 老年期にある対象の身体・精神・社会的特徴をふまえ、既習の基礎知識と看護技術を応用し、日常生活活動の維持・回復に向けた適切な援助を展開する。</p> <p>2. さまざまな健康状態にある老年期の対象および家族に対し、状況に応じた看護技術を安全・安楽に提供するための基礎的能力を養う。</p>		
学習目標	<p>1. 対象の身体・精神・社会的機能の加齢による変化を理解することができる。</p> <p>2. 対象の健康状態や状況を考慮した看護技術の方法が考えられる。</p> <p>3. 基礎技術の目的、原理・原則、適応をもとに、設定した状況から根拠ある援助を考えることができる。</p> <p>4. 準備・実施・後片付けという一連の流れの中で、一つ一つの基本動作を習得できる。</p> <p>5. 対象の発達段階や理解度にあわせた説明や声かけができる。</p> <p>6. 対象の安全・安楽に対する配慮を常に意識して実施できる。</p> <p>7. 対象の反応を見ながら実施することができる。</p> <p>8. 基礎技術の実施手順、実施前・中・後の看護を振り返り、看護実践や設定内容を評価できる。</p> <p>9. 自ら学習し、考える能力を養い、自己学習の方法が習得できる。</p> <p>10. グループ内で協力し、演習を進めることができる。</p>		
授業内容			
回数	学習内容	授業形態	
1	<p>授業展開方法説明</p> <p><課題1GW></p> <p>選択した疾患に対する基礎知識（病態、症状、検査、治療、看護）や看護技術項目に対する基礎知識（目的、適応、必要物品、実施手順、実施前・中・後の看護等）の内容をGWしてまとめる。</p>	講義・演習	
2	<p><課題1+課題2GW></p> <p>課題1が終了したら課題2のGWとして、患者の全体像と看護場面の状況設定をする。その設定に基づき、援助の必要性のアセスメントや状況設定チェックリストを作成し、手順・留意事項をGWする。</p>	演習	
3	<p>全グループ課題1+2のGWが終了後、それをもとに実際に技術演習を行い内容の修正をする。</p>	演習	
4	<p>内容の修正をしながら試験に向けて技術演習をする。</p>	演習	

5	前半1Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション 後半2Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション	試験・討議
6	前半3Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション 後半4Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション	試験・討議
7	前半5Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション 後半6Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション	試験・討議
8	7Gが30分で発表（試験）発表後10分間全体でディスカッション	試験・討議

使用教科書・教材・参考書

新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 メヂカルフレンド社
 新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 メヂカルフレンド社
 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 看護技術プラクティス 学研

成績評価の方法

演習態度、発表（試験）内容・提出物の内容で評価 100%

備考

授業内容

1. 学習形態：5名ひとグループで7G編成での討議・演習・発表（試験）
2. 討議演習内容：グループ毎に疾患や看護技術項目を決め、看護場面の状況設定をして、日常生活援助（食事・活動・排泄など）場面を発表する。
3. 振り返り：発表後、質疑応答での他者評価も参考に、グループ毎で各々の演習を評価・考察する。また、個人としての達成度や評価・考察をする。

※各クラスで授業を行う